企画力・実践力・コミュニケーション力が身につく

社会教育主事課程
（社会教育士）



社会教育主事の資格（社会教育士）を取得すると、次のようなメリットがあります。

教師としてのメリット

地域と連携した教育活動の、知識やコミュニケーション力が身につく

小中学校では　コミュニティ・スクール、地域学校協働活動で活躍
高等学校では　「公共」「総合的な探究の時間」の授業で活躍

（注）文部科学省は「社会に開かれた教育課程」を推進し、そのために教師が社会教育士を取得することを奨励しています（「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」令和3年1月28日、88頁より）

企業人、公務員としてのメリット

教育の側面から社会や地域をリードする力が身につく

企業人として　教育市場の開拓、職場の人材育成、CSRなどで活躍
公務員として　住民との協働による地域づくりで活躍

（注）社会のあらゆる組織・機関の維持・発展には「教育（学び）」が組み込まれています。
社会や地域を教育の側面から向上させるための企画力や実践力が身につきます。

※　CSRとは Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会的責任」を指します。現代の企業には、人権の尊重、環境への配慮、地域社会への貢献など、社会の多様なニーズに応える責任があり、これらの責任を果たすことが企業発展の不可欠な条件となっています。

社会教育主事とは、都道府県や市町村の教育委員会で仕事をする専門的教育職員です。青少年教育やまちづくりに関する教育の計画づくり、学習・スポーツ・レクリエーションの活動を行う人たちへの助言や指導、学校と地域との連携の促進など、さまざまな場面で活躍します。

社会教育主事課程を履修すると、「社会教育士」という称号も取得できます。「社会教育士」は、名刺や履歴書に称号として記載できます。そして、今後の持続可能な社会をつくるために、学校、企業、行政機関などで活躍することが期待されています（詳細は右のQRコードより）。

文部科学省
「社会教育士」
ＨＰ

卒業生の声より

リーフレット「企画力・実践力・コミュニケーション力が身につく社会教育主事課程（社会教育士）」から抜粋

小学校勤務　2024年度卒業

社会教育主事課程の講義では、学校という枠にとどまらず、地域や人との関わりの中で子どもが育っていくことを学びました。ユースワークの現場におけるボランティア活動を通して身につけた「事実・見立て・対応」という支援の視点や、「今この瞬間」だけで支援を捉えるのではなく、長い目で子どもの成長を見通す視点は、現在の教育活動における大きな土台となっています。

社会教育主事課程での学びは、どのような進路に進んだとしても、人や社会を多面的に捉える力として生き続けるものだと思います。

地方銀行勤務　2022年度卒業

現在、地方銀行で融資課の一員として働いています。社会教育と銀行業務は一見交わることのないような二つだと思われるかもしれませんが、実際に働いてみて様々なつながりを発見することができました。最も大きなつながりだと思ったことは、相手の将来を創造し、そして支えられることであると思います。それはつまり、「コミュニケーションを通じて信頼し合える関係性をつくり、一緒に歩んでいく」ということであると私は思いました。

得たことを生かして、多くの個人・法人のお客様の現在から未来へと支えられるような行員になれるよう頑張っていきたいと思います。

教育委員会勤務　2023年度卒業生

社会教育主事課程の講義では、様々なアプローチの仕方で地域に関わる人がいて、その関わるきっかけづくりを社会教育が担っていることを学びました。多くの事例を講義で知れたことが現在の仕事にも活きていると思います。現在、私は教育委員会事務局で、青少年委員やPTAの活動支援、家庭教育講座の企画・実施などを担当しています。社会教育主事課程での学びが、地域に入り込むコミュニケーションのヒントになったり、企画を練る際のヒントになったりと、インプットした知識がアウトプットできていると感じています。

資格取得者調査より

社会教育主事資格を取得した学生に対するアンケート調査の結果（2026年1月）から抜粋

社会教育主事課程で身についた力として、学校以外の「多様な学習の場や機会」に関する知識、学校教育と異なる「学びの方法」や「地域の課題解決」に向けた学びの理解、学びの場の「ファシリテーションに必要なスキル」の向上などが挙げられています。社会教育の場だけでなく、学校や企業など、様々な場で活用できる力が身についたことがわかります。